

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

児童生徒、保護者、医療者、教職員が、羽曳野支援学校で出会ったすべての人や経験を通して「はびきのプライド」を持ち、児童生徒が、「強く、明るく、豊かに」毎日過ごし、原籍校へ戻っていける学校をめざす。

- ・児童生徒一人ひとりの個性と可能性を大切に、「楽しく学び、ともに育ち、豊かに生きる」教育の実現。
- ・地域の学校や関係機関との協働推進による病気やけがの子どもたちへの支援の拡充。

2 中期的目標

1 児童生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働の学びの充実

- ① 児童生徒の病気やけがの状況に応じた指導内容や指導方法の工夫等充実させるために多様な教育活動に取り組む。
- ② 小学部・中学部段階からのキャリア教育の充実をめざす。
- ③ 1人1台端末を効果的に利活用した様々な体験(間接的・疑似的)や、プログラミング的思考の育成、読書活動の推進、分教室間や原籍校とつなぎ、協働の学びの充実を推進する。
- ④ 分教室間の効率の良い教員配置を推進し分教室間連携を強化する。
- ⑤ 個別の教育支援計画・個別の指導計画の充実および児童生徒の特長をのばす支援体制の確立をめざす。

2 支援教育力の向上

- ① 「主体的対話的で深い学び」を旨とした授業や、自立活動を充実させ、児童生徒が自分の病気やけがに向き合い、心身の安定と自己肯定感を育成する教育力を身に付ける。
- ② 専門家との連携により、教育相談の充実、授業の充実、経験の少ない教職員の育成を含めた教職員の専門性の向上を図る。
- ③ センターの機能の役割を果たすとともに病弱支援に関わる地域連携の充実に努める。

3 安全で安心な学校生活をおくることができる学校づくり

- ① 児童生徒が安心して学校生活ができるよう、児童生徒の人権を尊重する学校づくり。
- ② 学校間(羽曳野支援と原籍校)連携、医療機関(羽曳野支援と病院)連携、保護者との連携体制、強化した学校づくり。
- ③ 病院と連携した防災計画や感染症対策を推進し、非常時に備えた安全を確保し、備品等の整備を充実させる学校づくり。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和4年9月～実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>今年度は、今までの課題が改善される傾向が見られた。児童生徒・保護者からの自己診断アンケート回答の「そう思う」が、一般的に上昇した。医療関係者からの回答では、「大体そう思う」が、これまで以上に多い。医療関係者との連携の難しさが表層化した結果である。</p> <p>項目1「学校に行くのが楽しい」の肯定的評価が、一昨年度から昨年度にかけ増加、今年度はさらに増加したことから、個別最適な学びへの丁寧な支援が表れたが、「そう思わない」と答えた児童生徒が4%いることを見落とさず、今後も、どの児童生徒にも楽しいと感じるような努力を続けることが課題である。</p> <p>項目2「授業のわかりやすさ」に関する項目では、児童生徒回答は微増、保護者回答では大きく上昇している。児童生徒個別の指導による授業形態が、多岐にわたる現状からくる難しさが課題となっている。</p> <p>項目3「行事の充実」は、例年になく高い数字で肯定的に受け取めている。コロナ禍でもリモート等を積極的に利用した行事の実施によるものだと考えている。</p> <p>医療関係者に対するアンケートについて、フォーム作成ツールを利用したことで、回答数が増えたが「だいたいそう思う」という回答が例年同様多数を占めている。学校からの発信をすべての医療関係者に正確に伝えることは難しいが、今後もより一層連携を深める必要がある。</p> <p>入院期間により、学校行事の参加ができなかったり、コロナ感染状況の捉え方が病院毎、児童生徒の入院理由により違うので数字で表れにくい、今後も引き続き医療従事者および病院と連携を密にしていく。</p> <p>項目4「これからの夢や職業、進路について先生と話し合ったことがある」について、R3 児生 29%、R4 児生 30%であるが、病気治療している子どもは遠い先のことについて、ふれない方が多い。「ふれない結果としてこの数字だととらえると、ネガティブな評価でなくてよいのでは。」と学校運営協議会委員から助言された。</p> <p>項目7「防災教育」について、「そう思う」R3 児生 30%・保 56%・教 53%→R4 児生 45%・保 74%・教 67%で、「だいたいそう思う」を含めると児生 61%・保 86%、教 97%となり、今年度の重点項目として改善された結果である。</p>	<p>第1回学校運営協議会 令和4年7月5日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ後には、すべての学校で「出席」の概念が大きく変化していくと想像できる。その時にどのような方法で教育を進めるか、今から考え始める必要がある。 ○ICT を利活用した協働の学びで、「子ども同士」をどうつなげていけるかが、原籍校でも課題である。 ○入院治療しながら学ぶ子どもたちの「しんどさ」を福祉的な視点も入れて支援していくとよい。 ○ハンディキャップを認め合い、伸ばしていき、教育と医療が連携した「共生社会」を子どもたちが体験していくことで、本当の意味での「生きていく力」を養っていく。今後も教育と医療の連携を期待している。 <p>第2回学校運営協議会 令和4年12月2日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オンライン授業は、入院する児童生徒の孤立に対して「一つの風穴を開ける可能性」である。今後の発展に期待する。 ○ICT を利活用した子どもたちの作品 WEB サイト投稿とその評価について、社会から隔絶され社会に入れない入院中の子どもが、自ら発信して反応を知る非常に良い取り組みである。子どもたち自身の社会性育成に対してインパクトがある。 ○全国の病弱支援学校では高等部のある学校があり、大阪府でも中学を卒業後の入院する子どもたちの進路として病弱支援学校高等部設置があれば子どもたちの見通しができて良いと考えている。 ○個別最適な学びと協働の学びの充実について、ICT を利活用した取り組みが順調に進んでいる。 <p>第3回学校運営協議会 令和5年2月10日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校ブログでの情報発信や大学との連携や外部活力の活用など今後も積極的に取り組んでいくことで、支援学校教員をめざす大学生が増えたり、支援教育に理解を示す社会資源が増えてくることを期待している。 ○病弱支援学校で学ぶ児童生徒は、当たり前が突然なくなって社会とのつながりが途切れてしまうので、ICT を利活用した間接的・疑似的な体験は大切である。今後も継続していけることを期待している。 ○病院に入院しながら学ぶ子どもたちは、教員との信頼関係を構築していくことで「生きる力」「成長していく力」を育んでいく。教科学習だけでなく、将来を見据えて「背中を押してやったり、引っ張っていく」ことも時には必要である。子どもたちの移行期医療として教育の果たす役割は重要であり、今後の病弱支援学校の取り組みに期待している。 ○前籍校とのつながりや復学時のつながりなど、連携がよくとれており、めざす学校像の役割をしっかりと果たしている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 ・ 児童生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働の学びの充実	① 児童生徒の病気やけがの状況に応じた指導内容や指導方法の工夫等充実させるために多様な教育活動に取り組む。	①ア ・授業や自立活動や総合的学習の時間等を活用し、こどもが病気やけがの状況を理解しながらも、豊かな学びの充実をすすめる取り組みを各部署の特性に応じて行う。	①ア ・国語科・美術科・音楽科等で、創作や表現を高める授業を行う。 国語科(語集作成) 小学部、美術科(作品展示) 音楽科(楽器演奏、発表)	①ア △ ・五七五俳句集 作成 ・全国院内学級絵画展覧会入選 2 ・琴やウクレレの演奏 ・トーンチャイム発表(本校・母子)
	② 小学部・中学部段階からのキャリア教育の充実を目指す。	②・イ ・自立活動の時間等を利用したキャリア教育を実施する(自分を知る・他者を知る・社会を知る取り組み)。 ・ウ ・病種により、将来必要となる生活のあり方が異なるため、各部署の状況に応じたキャリア教育に関わる取り組みを行う。	②・イ ・社会人から学ぶ(オンライン)講話や実体験の実施(阪南) ウ ・病院で働く人々からインタビュー実施(母子) ・教員見学研修(年 2 回以上)。フリースクール・適応指導教室、先進的な取り組みを実施している学校等を見学し、多様な進路相談や進路実現、不登校児童生徒への指導等、支援できるようにする。 ・学校教育自己診断アンケート [児童生徒②]授業はわかりやすい [肯定率 93%] 肯定率 95%	②イ・〇 ・獣医(天王寺動物園)2 学期建築業・サラリーマン(海外)3 学期などから話を聞いた ウ 〇 ・病院で働く様々な職業の方からインタビュー実施(母子) ・京都市立中学や和歌山県内のフリースクール他、3 回実施
	③ 1 人1 台端末を効果的に活用した様々な体験(間接的・疑似的)や、プログラミング的思考の育成、読書活動の推進、分教室間や原籍校とつなぎ、協働の学びの充実を推進する。	③ア ・全校ロボットプログラミング選手権、全校ハピリンピック大会など、全校をオンラインでつないだ学校行事の実施し、多様性を認めて他者と協働する力を育成したり、自分を俯瞰的に理解する力を育成したり、ロボットプログラミングやゲームや動画等を視聴し、論理的に考えて答えを導く力を育む。 イ ・リモート機器を利用し、間接的・疑似的体験を実施する。 ・児童生徒と原籍校をリモートでつなぎ、復学への支援を実施する。 ウ ・読書活動推進委員会を中心に、よみきかせや図書紹介リーフレット作成、ブックトーク等、工夫した取り組み)や蔵書のデジタルリーフ化を進める。	③ア ・自立活動や総合的学習の時間で、端末を積極的に活用し、プログラミング的思考を育成する学習をする。 プログラミング的思考の解説動画の視聴や、日常生活を題材としたプログラミング的思考の学習、カードゲームやボードゲームを活用したプログラミング的思考の気づき、ロボットを活用したプログラミング的思考の育成等を行う。 これらの授業実施を本校及び各分教室で年間6回以上かつ年間計 50 回以上実施 ・学校教育自己診断アンケート [児童生徒①]学校に行くのが楽しい。 [肯定率 83%] 肯定率 85% イ ・間接的・疑似的体験回数 年間 3 回(新規) ・他分教室との自立活動交流年 6 回(新規) ・原籍校とのリモート回数 [年間 3 校] 年間計 4 回 ウ ・校内教員アンケート [読書を活性化させることができたか] [肯定率 75%] 肯定率 80% ・図書貸出率(図書利用者数/在籍数) [31%] 35% (R6 目標:40%以上)	③ア 〇 ・年間回数 6 回かつ年間計 50 回 ・学校教育自己診断アンケート [児童生徒①]学校に行くのが楽しい。 肯定率 86% イ 〇 ・農芸高校ふれあい動物園 ・江崎記念館 ・オンラインポッチャ ・分教室交流クイズ大会 3 回 ・プログラミング相撲大会 3 回 ・原籍校とのリモート回数 1 回 ※3 回計画したが、原籍校の事情により 1 回のみ実施 ウ 校内教員アンケート [読書を活性化させることができたか] 肯定率 79.1 % △ ・図書貸出率(図書貸出数 241 回/延べ在籍数 235 人) 102% 〇 利用者数でなく貸出回数で集約 ※感染対策を考慮

	<p>④ 分教室間の効率の良い教員配置を推進し分教室間連携を強化する。</p> <p>⑤ 個別の教育支援計画・個別の指導計画の充実および児童生徒の特長をのばす支援体制の確立を目指す。</p>	<p>④ア ・教育課程検討委員会、ICT 教育推進委員会等で、教員の保有免許を考慮し、ICT 機器を利用した効率の良い授業を実施。</p> <p>イ ・他の分教室への授業協力等、広域指導体制の拡充を進める。</p> <p>⑤ ・自立活動部を中心に個別の教育支援計画・個別の指導計画の記載内容の充実を図る。</p>	<p>・④ア ・全部署全教科 ICT 機器利用授業実施率 90% [新規] ・新転任の教員の研修に部署間交流を 2 回実施。 [新規] ・オンラインによる実技科目実施。6 回[新規] ・複数分教室授業担当者を常設配置する。 [新規]</p> <p>⑤ ・全教員で記載内容についての共通理解を深め実践し、原籍校へ引き継ぎ資料としても役立てる。 自立活動部実践交流会 年 2 回以上</p>	<p>・④ア ○ ・全部署全教科 ICT 機器利用授業実施率 97 % ・新転任教員者(小学部 3 名・中学部 4 名・常勤講師 3 名)計 10 名 ・部署間交流を 2 回実施以上。 ※11 月より名称を部署間交流から部署間派遣へ変更 ・体育・技術・家庭でオンライン実技授業実施 6 回以上 ・複数分教室間担当者 音楽・体育美術・技術家庭・理科・数学を常設配置した。</p> <p>⑤ ○ ・自立活動部実践交流会 年 2 回 ・個別の支援計画及び指導計画を R5 より電子媒体のみで保管</p>
2 ・支援教育力の向上	<p>① 「主体的対話的で深い学び」を旨とした授業や、自立活動を充実させ、児童生徒が自分の病気やけがに向き合い、心身の安定と自己肯定感を育成する教育力を身に付ける。</p> <p>② 専門家との連携により、教育相談の充実、授業の充実、経験の少ない教職員の育成を含めた教職員の専門性の向上を図る。</p>	<p>①ア ・ICT 教育推進の教員研修を実施し、自己理解や自己肯定感を高める学びへつなげる授業を行い、「自分を肯定し、主体的に学ぶ力」や、「社会とつながる自分を考える力」を育む。</p> <p>イ ・児童生徒の特性に応じたアプローチについて検討し、研修によるスキルアップをはかる。わかりやすい授業の実践に向けて研修計画を策定する。</p> <p>②ア ・全国・近畿等の病弱教育研究会に参加するとともに、実践発表を通して情報共有・情報交換を行い、教員の専門性の向上を図る。</p> <p>イ ・病弱教育における教科指導力の向上について、教員が互いに学びあう機会を設ける。教科書改訂に伴う必要書籍および研究書籍を確保し、研究をすすめる。</p>	<p>①ア ・授業で利用したスライド等を学習支援クラウドサービス等に蓄積し、児童生徒が振り返りやすくしたり、限定公開の動画等により、校内で実践事例を公開し、関係教員がいつでも見学できる仕組みを構築する。 ・児童生徒の状況に応じて双方向のオンライン授業をしたり、スライドを用いた発表を実施する。 ・学校教育自己診断アンケート(児童生徒②)授業は分かりやすい [肯定率 93%] 肯定率 95%</p> <p>イ ・各教科で授業見学を実施し、授業改善を図り、研究誌はびきのに掲載する。 中学部 国・数・社・理・英・実技4科 小学部 全科 新規 年 2 回実施</p> <p>・学校教育自己診断アンケート(教員)・新規設問「学校は、児童生徒 1 人一台端末を効果的に活用している。」 肯定率 60%以上 ・ICT 教育を推進するために、分教室の通信環境整備や訪問教育時の通信環境改善に必要な機器等、必要な備品・消耗品を整備し、活用する。</p> <p>②ア ・R5 大阪病弱教育研究会幹事校担当となる準備委員会を立ち上げ、年 6 回の会議を実施する。</p> <p>イ ・全校研修(新転任者研修及び希望者研修年間3回以上)を実施するとともに、業務上必要な基礎力アップをはかる。研修研究に必要な書籍やアプリ等を選定し充実させる。</p>	<p>①ア △ ・学習支援クラウドサービス・プレゼンテーションソフト等の活用推進(訪問・近大等) ・オンライン授業通年実施(近大) ・学校教育自己診断アンケート(児童生徒②)授業は分かりやすい 肯定率 94%</p> <p>イ ○ ・研究誌はびきのをデジタル発行する次回より。 ・研究誌はびきの掲載 中学部 国・数・社・理・英・実技4科 小学部 全科 年 2 回実施 ・学校教育自己診断アンケート(教員 14)「学校は、児童生徒がタブレットを効果的に活用できるようにしている。 肯定率 88% ※原籍校の事情や病院・個々の病状により 1 人 1 台端末利用 ・ICT 教育を推進し、分教室の通信環境整備や訪問教育時の通信環境改善に機器・備品・消耗品を整備し、活用した。 ※訪問部を中心にキャリア回線導入し、ネット環境のない場所でも授業ができるようになった。</p> <p>②ア ○ 準備委員会設置 会議数 6 回</p> <p>イ ○ ・全校研修 3 回 ・PDF 版拡大教科用図書活用研修 (3 回)</p>

	<p>③ センター的機能の役割を果たすとともに病弱支援に関わる地域連携の充実に努める。</p>	<p>ウ ・病弱支援学校で学ぶ児童生徒の病気やけが等を理解した指導ができるよう教職員の研修を行う。</p> <p>・③ ・保護者、医師、原籍校との連携のもと、児童生徒の状態に合わせて、ケース会議を行い、スムーズな復学をめざす。</p> <p>ア ・保護者と児童生徒が共に過ごせる機会を設けるとともに、保護者と共に交流が図れるよう内容を検討し実施する。</p> <p>イ ・他病院で治療を受けている児童生徒の教育を受ける権利を保障するため、訪問教育についての理解促進を図る。</p> <p>ウ ・ICT教育の推進や病弱支援教育における課題を発信する。</p>	<p>ウ ・病院と連携した研修の実施 母子医療センター はびきの医療センター 三国丘病院(訪問) 労災病院 年計 4 回以上実施</p> <p>・③ア ・学校自己診断アンケート(保護者⑫) PTA 行事は参加しやすいよう工夫されている。 [34%] 50%。</p> <p>イ ・大阪府看護師協会、小中学校養護教諭研究会等と連携し訪問教育について説明する機会を増やす。 [年 3 回] 新規に 6 市町村で実施</p> <p>ウ ・小中養護教諭からの個別相談等について ICT の活用方法等検討し、試行実施する。 ・学校 HP 等で、地域支援に関する情報を積極的に情報提供する。</p>	<p>ウ ○ ・母子医療センター 血液腫瘍科より研修 (5 月) 気管切開について研修(6 月) 人工呼吸器について研修(9 月) こころ科より研修 (6・11 月) ・はびきの医療センター アレルギー疾患研修(8 月) ・労災病院 病院防災訓練に参加(予定) 年 7 回実施</p> <p>③ア △ ・学校自己診断アンケート(保護者⑫) PTA 行事は参加しやすいよう工夫されている。 44%</p> <p>イ ○ 1 大阪狭山市 11/21 2 八尾市 1/中頃 3 東大阪市 3/2 4 柏原市 10/26 5 貝塚市 次年度へ 6 岸和田市 資料送付 7 松原市 コーディネーター連絡会 8/23 ・看護師協会との連携した地域支援はコロナ禍のため今年度中止</p> <p>ウ △ ・Web 会議システムを利用した原籍校とのケース会議を設定したが、コロナ感染対策の緩和等により、すべて対面を希望したため、開催数は 0 回 ・学校 HP 改訂</p>
<p>3 ・安全で安心な学校生活をおくることのできる学校づくり</p>	<p>① 児童生徒が安心して学校生活ができるよう、児童生徒の人権を尊重する学校づくり。</p> <p>② 学校間(羽曳野支援と原籍校)連携、医療機関(羽曳野支援と病院)連携、保護者との連携体制、を強化した学校づくり。</p>	<p>①ア ・人権に関する意識を高める取り組みの推進。</p> <p>イ ・道徳教育の推進。</p> <p>ウ ・いじめの早期発見に向け、病棟と連携して、日々の連絡の中で、気になる状況があれば共有し確認する。いじめが明らかになった時には、いじめ対策委員会で迅速に連携対応する</p> <p>② 退院後のアフターフォローの実施。 ・病院と学校との連携の強化 ・保護者、児童生徒との教育相談の徹底 ・原籍校との連絡体制の強化</p>	<p>①ア ・人権に関する研修(同和問題・児童生徒へのセクハラ)の実施。[各 1 回] 本校各分教室 1 回以上実施</p> <p>イ ・道徳教育教師を中心とした研修の充実。 [3 回] 本校各分教室で 3 回以上</p> <p>ウ ・いじめ対応に関わる研修・体罰防止研修を実施する。 [2 回] 本校各分教室で 2 回以上</p> <p>② ・学校教育自己診断アンケート児童生徒⑥ 「先生はあなたのことをたいせつにしている」 [肯定率 66%] 70%以上 ・学校教育自己診断アンケート児童生徒⑩ 「先生は起こったいじめについてあなたが困ったら真剣に対応してくれると思う」 [肯定率 74%] 80%以上 ・学校教育自己診断アンケート保護者⑥ 「学校は子どもの人権やプライバシーに配慮した指導を行っている。」 [肯定率 72%] 75%以上 ・学校教育自己診断アンケート保護者⑭ 「教員は起こったいじめについて、子どもたちが困ったら真剣に対応してくれると思う」 [肯定率 52%] 60%以上 ・区域外就学による他府県の保護者との面談方法を工夫し、実施。</p>	<p>ア ○ 各 1 回実施</p> <p>イ ○ 各 3 回実施</p> <p>ウ ○ 各 2 回実施</p> <p>② ○ ※指標 4 項目を総合的に評価 ・学校教育自己診断アンケート児童生徒⑥「先生はあなたのことをたいせつにしている」 76% ・学校教育自己診断アンケート児童生徒 ⑩「先生は起こったいじめについてあなたが困ったら真剣に対応してくれると思う」 83% ・学校教育自己診断アンケート保護者⑥「学校は子どもの人権やプライバシーに配慮した指導を行っている。」 89% ・学校教育自己診断アンケート保護者⑭「教員は起こったいじめについて、子どもたちが困ったら真剣に対応してくれると思う」 54% ・区域外就学での Web 会議システム実施 0 回 ※コロナ感染対策の緩和等による</p>

<p>③ 病院と連携した防災計画や感染症対策を推進し、非常時に備えた安全を確保し、備品等の整備を充実させる学校づくり。</p> <p>④ 働き方改革に関する取り組み</p>	<p>③病院と協働した避難対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底 ・学校安全点検と改善 ・災害時の対応について、教育相談時と入級時に保護者と確認を徹底。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校と分教室の間の移動時間を少なくし、業務時間を確保できるようにする。 ・仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現に向け、業務の偏りをできるだけ少なくするなど、PDCA サイクルを活用した業務の改善を行っていく。 	<p>・③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院と学校の連絡会で、避難経路等を確認。 [1回] 2回以上 ・学校アンケート保護者 「学校から、入級時に地震や火災などの防災や安全についての学びや災害時における学校の対応について説明を受けた。 [87%] 100%を旨す <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌・教科等での Web 会議システムを利用した会議数を 20 回以上とする。(新規) ・学校教育自己診断アンケート教職員⑪ 「学校の教育活動について教職員間で常に話し合っている」 [肯定率 95%] 95%以上 ・学校教育自己診断アンケート教職員⑫ 「教育活動、学校運営全般にわたる評価及び反省を行い、次年度の計画に活用している」 [肯定率 89%] 90%以上 	<p>③. △</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各病院で実施 計 7 回 ・学校アンケート保護者 「学校から、入級時に地震や火災などの防災や安全についての学びや災害時における学校の対応について説明を受けた」 86% <p>④. ○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web 会議数 30 回以上 ・学校教育自己診断アンケート教職員⑪ 「学校の教育活動について教職員間で常に話し合っている」 98% ・学校教育自己診断アンケート教職員⑫ 「教育活動、学校運営全般にわたる評価及び反省を行い、次年度の計画に活用している」 96%
--	---	--	--